

広報  
第29号

# 上野東部だより

2014年12月15日  
発行  
東部地域住民自治協議会  
総務広報部会  
伊賀市緑ヶ丘本町1681-8  
上野東部地区市民センター内  
TEL・FAX 24-3999



## 地域みんなで子育てを あつまれ! 親子の集い

秋たけなわの11月8日(土)、午前10時～11時30分、上野東小学校体育館で、上野東部地区内にお住まいの未就学児とその家族を対象に、東部地区民生委員児童委員協議会主催の「親子の集い」がはじめて開催されました。

みんなで楽しく遊びながら、仲間づくりや情報交換を行い、地域の方同士が顔見知りになる「交流の場」をつくる目的で開催されました。当日は他のイベントと重なり、集まるか心配されましたが、約100名の親子の参加がありました。

会場には、バルーンアート、魚つり遊び、ボウリング、ダンボール遊び、リズム遊び、絵本赤ちゃんコーナー、工作、交流コーナー、更にお菓子のつかみどり

コーナー等があって、日頃、家ではできない遊びばかりなので、親子いつしょになかよく楽しんでいました。各コーナー遊びは、民生委員が役割分担し、工夫してすべて手作りしたことです。

参加したお母さんは「このような遊びは家ではできないので、たいへん子どもがよろこんでいました。」「近所の人とふれあう機会がないので、話ができるよかったです。」「来年も来たいので、もっと遊びコーナーをふやしてほしい。」と話していました。

高島会長は、「今後も継続して開催していく、地域の親子同士の交流の場を広げていきたい。」と話していました。

〈取材・写真：縄手 稔〉

# 『防災は一人ひとりの備えから』



11月3日(月・祝)9時から最年少の9ヶ月の乳児を含む450余名が参加して、第7回東部地域住民自主防災訓練が開催されました。あいにく前日が雨天で平野西町のグランドコンディションが不良のため、上野東小学校体育館に変更しました。今年は雨天時用の防災訓練となったので規模は縮小されましたが、今後30年以内に南海トラフ大地震が60~70%の確率で発生する(地震調査推進本部)と呼ばれていますので、参加者は全員真剣に取り組んでいました。今回の訓練では、各自治会長宅に置かれた「無線機」に午前7時30分、本部から一斉に指令が送信されました。



テスト送信する  
宮田部会長

## 地震体験車(起振車)



## いざ地震が起きたら、 ダンゴ虫のポーズになって我が身を守る

起振車で震度6強の揺れを体験した。参加した2才の幼児とお父さんが、消防士から我が身と子どもを守る姿勢を教わった。

参加した人は「いざ本当に地震が起きたら、ダンゴ虫のポーズになって、手を首の後ろに廻すポーズができるか心配です。たいへんこわかった、良い経験をしました、もうフラフラです。」と話していた。(緑ヶ丘中町の女性)

## 煙体験



## 煙からの脱出は、低い姿勢でカベにそって、 ハンカチかタオルで口を覆い、 走らない、しゃべらないで

「前が見えないので不安、こわかった。煙は上へあがるので床面スレスレに這って逃げると良いことがわかった。」(伊予町の男性)

## ビデオ視聴



## 地震を経験して、家の中で準備しておいて 良かったものベスト5(ビデオから)

- ①懐中電灯
- ②携帯ラジオ
- ③卓上コンロ
- ④ポリタンク
- ⑤毛布(寝袋)

「即実行、家に帰ったら準備します。」(緑ヶ丘南町の女性)

# と自主防災訓練

## 防災訓練2014

### 消火器は、家族皆が目につく所に置こう

消火器は初期消火で、人の背丈までの炎の時に使う。手順は①まず火事だと叫んで周囲の人に知らせる②安全ピンを抜く③ホースを外して火元に向ける④レバーを強く握る

「初めて消火器を使った。いざという時には勇気を出して使います。」(車坂町の女性)

### 心臓マッサージは、胸の真ん中を(5cm以上) 100回/分以上の速さで圧迫

「いざという時に役立つようにと、親子で参加しました。」(城北の女性)

### AEDの指示通り、勇気をもって、 落ち着いて使おう

「今は指導員がいるからできたが、いざという時はできるかな?マッサージは大変しんどかった。日頃から体力をつけておきたい。」

(玄蕃町の女性)

### 救出訓練・止血法 (タンカ・三角巾)



### 簡易担架の作り方、吊り方 担架を吊る時ぎっくり腰にならぬように

「ええこと教えてもらたけど、いざという時までおぼえてるやろか。メモして忘れないようにしとかな。」(赤坂町の女性)

### いざ災害時の炊き出しがうまくいくか心配

「実際の災害では、炊飯道具、水、食料品が充分でないので今日のように事が運ばないと思います。非常食等の炊き出し体験が必要だと思いました。」(炊き出し係)

(取材・写真:繩手 稔)

### 炊き出し





町じまんシリーズ ①

# わが町 上野寺町自治会

## ～住んでよかったです町に 生まれ変わっても～

### 昔の寺町

藤堂高虎の時代には、伊賀上野城の南東部を細長く伸びる大地を支切る防衛ラインの一つとしての機能と宗教統制下の宗旨改め、檀家統制という政治的目的で寺町が誕生しました。7か寺が白壁を並べる町です。

「夕焼け小焼けで日が暮れて…」と童謡に歌われるごとく、お寺の鐘は時を知らせる合図であり、その境内は子どもたちの遊び場であり、お堂は地域の集まりに使われる集会場であり、住民と深い結びつきを持っていました。近年は地域のコミュニティーが次第に希薄になり、住民に対するお寺の求心力は失われていきました。



▲寺町恒例の敬老会◀



▲江戸時代の寺町図

### これからの寺町

今の寺町  
の世帯数は

35軒です。お寺以外の住民はほとんど高齢化が進み、10年先を考えると、宗旨の違いは違いとして認め、お寺さんが年に2～3回はお茶飲み会等を催して話し合う必要があります。

また、お寺は公益法人ですから、公共の利益、つまり社会一般の利益を話し合う中から寺町自治会の有り方、貢献の仕方等、建設的な意見の生まれることが望まれています。

### 今の寺町

寺町を歩くだけで、ご先祖様への感謝の気持ちが涌いてきます。平日はもとより、日曜休日ともなればマップを持った観光客で賑わいます。

災害の無い町であり安心な町です。いざと言う時には病院が近く、電車に乗るにも広小路駅と茅町駅に近く、大阪や名古屋に行くにも高速バスの停留所に近い、便利で住みよい町です。

平成14年3月、金沢市で第1回全国寺町サミットが開催されました。寺を持つ寺町と呼ばれる地名のある全国の多くの地方自治体が集結し、寺町の町づくりを話し合う全国会議をきっかけに「寺町に鐘の音を残そう」という運動が拡がりつつあります。



(報告：妙典寺住職 奥山 俊桂)  
新たに「町じまんシリーズ」として始めました。



## 上野赤坂町児童福祉会

# お地蔵さんに守られて

赤坂町の福祉会は、代々受け継がれてきた行事の中で、子どもたちに大切な何かを伝えていく思いを感じさせる福祉会です。

赤坂町の子どもたちは、小学生は伊賀市立上野西小学校に通い、中学生は崇広中学校（校区再編前は桃青中学校）に通います。桜の咲くころランドセルに慣れない新入生は、通学団のお兄さんお姉さんにつれて行ってもらうのです。

その頃、福祉会の役員さんは、年間の行事を決めたりする会議をします。卓球大会の出場、夏休みのラジオ体操、レクリエーション行事、クリスマス行事、六送会・一迎会、そして赤坂の特徴でもある地蔵盆などについて決めていきます。

“子どものころの思い出として、心に残ることをしてあげたい”と思います。私たちも、子どものころ福祉会のオッチャンや、お兄ちゃんにつれて行ってもらったり、地蔵盆でお手伝いをして褒められたり、または、いたずらして叱られて反省したりした思い出があり、この町に生まれてよかったという思いをさせていただいている。

## 楽しい地蔵盆

地蔵盆は、毎年8月23日に町内会、福祉会、婦人会など、赤坂町総出の行事となっています。打ち合わせも回数を重ね、行燈を書いてもらったり、貼ったり、福引の準備や、夜店の準備など、来ていただく方に喜んでもらう準備を入念に行います。そして当日は、子どもたちも朝から晚までお手伝いをして、また、お地蔵さんにお参りをします。子どもたちの楽しみは、なんといっても夜店の賑わいです。おいしい食べ物、たのしいくじ引きなど、盛りだくさんのお店が並びます。縮小化が著しい各地の地蔵盆ですが、赤坂町は、みんなでこのお地蔵さんを盛り上げなければ、という思いが強いようです。子どもたちに、代々この町と家族と自分を大切にしていてほしいというお地蔵さんの願いなのではないでしょうか。

また、今年は夏休みに入ってすぐ、名阪森林パークで、ニジマスのつかみ取りとバーベキューパーティーを行いました。暑い夏の季節に、清流につかりながら、自分で捕った魚や、お肉を食べてみんなで楽しく思い出に残る一日でした。

思い出を残してあげたいという、福祉会みんなの協力のもと各行事をやり終えたあとは、福祉会の役員メンバーへの感謝の思いと、そして、いつも見守ってくれているかのように感じる諸先輩方への感謝の思いがいたします。ありがとうございます。

【資料】中学生7人、小学生8人、乳幼児4人（計19人）

名阪森林パークでのレクリエーション



報告：児童福祉会長 藤川直紀

# 地区市民センター整備要望書提出



9月12日運営委員会で承認された「地区市民センター改修プロジェクトチーム」(12名)は、以降現地に赴き現況の確認も行い、3度の検討会議を開催してきました。

検討会議では、①住民主人公(高齢者や障害のある方も含め)、市民が利用しやすい施設②災害時の避難、防災にも対応できるものといった観点から議論してきました。

バリアフリー。外付けエレベーター。各階に洗面所。中2階、中3階の現洗面所は、災害時に備えシャワー室と授乳室兼更衣室に。原則土足利用(1階に事務室、会議室二間、調理実習室。2階は、和室二間及び簡易間仕切りできる絨毯敷きの部屋となるので靴を脱ぐ。3階は、二間に簡易間仕切りできる全面大会議室)といった内容のものとなりました。さらに協力者の建築設計士さんが作成した平面図も添付し、10月29日の第4回運営委員会で報告し承認されました。また、市への要望書を出すこととしました。

11月4日小西事務局長と杉本チームリーダーが、地域づくり推進課松本課長に主旨説明し、要望書を手渡しました。なお、供用開始は28年4月の予定です。

## 「市道西明寺緑ヶ丘線の完工時期」についての要望書を市街地3自治協連名で市長、市議会議長に提出

第4回運営委員会開催の直前になって、消防本部移転(オープン28年4月予定)にともなう取り付け道路である市道西明寺緑ヶ丘線の完工時期がなんと平成30年頃になることが判明しました。

これでは緊急車両のスムーズな運用ができないと大問題になりました。消防本部・中消防署の本来の機能に大変な支障を及ぼします。一刻を争う緊急出動時に遅延をきたすことが危惧されることから、この影響を最も受けやすい、市街地の西部、南部自治協議会にも呼びかけ、連名で「1、市道西明寺緑ヶ丘線を消防庁舎移転の平成28年3月迄に完工 2、消防庁舎移転は、市道西明寺緑ヶ丘線が完工してから移転」の2項目からなる要望書を11月17日市長宛に提出しました。提出に当たっては、東部から役員や事務局長ら4名が出席し、対応した市長・副市長に主旨を説明しました。

なお、この話し合いの中で建設部長からは「地権者との話し合いと国の予算についての見通しも立ったので、27年度末には緊急車両の通行が可能」との明るい展望をもてる回答を引き出しました。但し、全面完工は30年の見通しということです。

また、田山市議会議長からは「市に対して説明も求める」との力添えの言葉をもらいました。

(文責:杉本秀行)

### 編集後記

この間、突如としての衆院解散、投票日まで23日という超短期の選挙戦の投票日が今号の発行前日となりました。

この選挙では「国民生活のこれからを左右する」ものとして激しいたたかいとなつたことでしょう。

その結果は、知る由もありませんが、各政党や候補者が掲げた「公約」を、国民の目線からみて是々非々を問い合わせ、しっかりと見つめなおし、国民の命とくらし、平

和を享受できるようにしていきたいものです。

話が代わって後三月で27年度に突入します。東部地域住民自治協議会にかかる大事な時期を迎えます。地区市民センター移転、自治センター化といった重大問題。これらを推進する、より民主的な規約への改正、強力な役員会の構築。さらに、空白の服部町1~3丁目の自治会作りへの援助などが山積しています。

住民のみなさんの積極的なご参加を期待してやみません。

(杉本秀行)